

病は知から

歯周病

ししゅうびょう

口内細菌によって引き起こされるため、むし歯と混同されがちな歯周病。30歳以上の方の約8割がかかっており、軽視されがちな病気の一つですが、きちんと意識してケアすることが大切です。

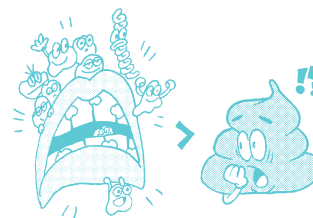
「歯周病」って、どんな病気？

むし歯とはちがいます



細菌が糖を分解して出す酸によって歯が溶け、穴があくのがむし歯。歯周病は原因となる菌も症状も違います。

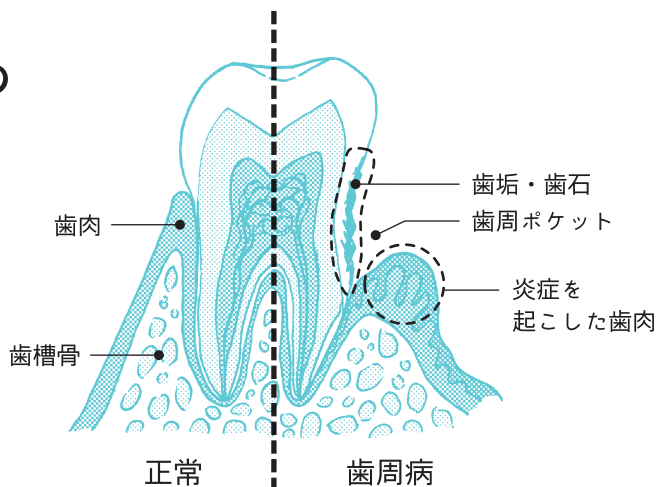
歯垢に含まれる菌の濃度は便以上!?



歯垢には1gあたり1000億もの菌がいます。便でも1gあたり100億~1000億。歯垢は、体の中でもっとも菌の濃度が高いといえます。

歯周病は歯を失う原因の第1位です

歯周病は、細菌の感染によって歯のまわりの組織が炎症で破壊される病気。進行すると、歯を支える歯槽骨が溶けて歯がグラグラと動くようになり、抜かなくてはいけなくなります。



痛みがないまま重症化することも



痛みがない場合もあるので、重症化して歯が抜ける寸前まで気が付かないことも。歯肉の腫れや出血、口臭が重要なサインです。

歯ぎしりやタバコは歯周病を悪化させます



噛み合わせの悪さや歯ぎしりは、歯周病を悪化させる原因に。また喫煙者は歯周病を悪化させやすいことが分かっています。

時には命の危険も！  
誰もがかかる「歯周病」が怖い

歯周病は歯の周りに炎症を起こすだけでなく、体全体に影響を及ぼすことが明らかになってきています。先生にお聞きしました。



歯周病菌が肺炎や動脈硬化を引き起こすことも。

かかりつけの歯科で定期的にケアを受けましょう。

歯科口腔外科 岸本 裕充 主任教授

歯周病はかからない人のほうが少ない病気ですので、軽く考えられがちですが、ひどくなると歯を抜かなければいけなくなる病気です。また、体全体にも影響し、時には命さえ脅かす重大なものでもあります。例えば、歯周病菌が誤嚥によって肺に入ると肺炎を起こすことがあり、高齢者の誤嚥性肺炎による死亡は年々多くなっています。また、歯周病になると歯ぐきが増え、出血しやすくなります。その傷から歯周病菌が血管に入ることで、動脈硬化の原因になるということも分かっています。

注意しなければいけないのが「糖尿病」を患っている方。体内に入った歯周病菌の影響により、血糖値を下げるインスリンの働きが悪くなり、糖尿病が悪化してしまうのです。糖尿病の人は歯周病が進行しやすいという面もあるので、歯周病をきちんと治療することが重要です。妊婦さんやこれから子ども

を持ちたいという女性も、注意が必要。女性ホルモンを栄養として増える歯周病菌が増加する妊娠中は、歯肉が腫れやすくなります。さらには、歯周病によって早産や低体重児出産のリスクが高まるとする研究もあります。予防には、まずは日々の歯みがき。しかし、完璧な歯みがきというのはなかなか難しく、市販の洗口液などでも歯みがきの補助的な効果しかありません。定期的に、かかりつけの歯科で歯石を取るなどのケアをすることが必要です。

兵庫医科大学病院では、日常的なケアなどの対応はあまり行いませんが、血が止まりにくいことが予想される抜歯などについて、かかりつけの歯科から紹介された患者さんへの治療も行っています。

